

## 成果の説明書

(氏名) 小林 徹	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<b>【研究活動】</b>	
A：介護報酬の変更が介護職従事者の賃金に与えた影響に関する計量分析を行い、「介護報酬の変化と介護労働賃金」が『産業研究』第 54 巻 2 号に掲載されることとなった。	
B：厚生労働省より「賃金構造基本統計調査」の個票データを取得し、技術進歩と賃金構造の変化に関する以下の研究を実施している。	
“Task Polarization and Changes of Japanese Wage Structure”	
2019 年 3 月 18 日に厚生労働省にて研究報告を行い、19 年度中に専門誌に投稿する予定である。	
C：科学技術振興機構、戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「人と AI システムの協働タスクモデルの構築に向けた調査」（研究代表者、慶應義塾大学商学部、教授、山本勲）に参画し、日本の労働市場における職業別タスク得点の構築を実施。構築したデータを上記「B」の研究に用いている。	
D：研究協力者として参加している「特別推進研究」プロジェクト「長寿社会における世代間移転と経済格差：パネルデータによる政策評価分析」において以下の研究を実施。	
“Employer-Learning and Birthplace Discrimination”	
2019 年 3 月 16 日に慶應義塾大学にて研究報告を行い、19 年度中に専門誌に投稿する予定である。	
<b>【教育活動】</b>	
A：労働経済学の講義では大森義明『労働経済学』日本評論社と小崎敏男・牧野文夫・吉田 良生『キャリアと労働の経済学』日本評論社、Borjas “Labor Economics”からテキストを構成した。主に板書をメインに説明した。	
また入管法改正に伴う外国人労働者の受入れに関するニュースなど話題になった政策については、労働経済理論を用いて政策の影響予測について説明しテストにも出題した。	
前・後期それぞれで 2 回の小テストを実施した。これに加え、抜き打ちで「レポートテスト」や練習問題を行うなどし、出席率向上を図った。	
B：応用計量経済学では、連合総合生活開発研究所「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート 2015」の個票データを東京大学社会科学研究所データアーカイブより教育目的で借り受け、演習形式で計量分析手法を指導した。	
今年度からエクセルによる分析に加え、計量経済分析が容易に行えるフリーソフト「gretl」を用いた演習も実施した。ここでは計量経済学の課題論文を与え、論文内で実施された分析と同じ変数・分析手法でデータのみ上記アンケートデータを用いて分析を実施した。	
また、介護労働市場に関して独自に収集したパネルデータを配布し、「差の差の推定法」に関する演習とテストを行った。	
C：演習では、演習Ⅱにて卒業論文指導を行った。12 本の論文が完成し、「卒業論文集」	

として製本し配布した。演習 I ではグループ研究を実施した。学内の学長杯プレゼンテーション大会への参加や、日本政策学生会議への参加を行った。日本政策学生会議では、プレゼンだけでなく完成させた論文に関する審査も行われた。基礎演習では、労働研究を中心に論文の輪読を行った。

## 2 その他の事項

A : 出前授業 : 茨城県立日立北高等学校

B : オープンキャンパスでのゼミ展示

C : 厚生労働省「勤務間インターバル制度普及促進のための有識者検討会」委員

## 3 次年度以降の計画・抱負

主に3つのテーマに関する研究を推進させている。1つは、技術進歩と賃金変化に関する研究であり昨年度から継続しているものである。こちらは専門誌への投稿を予定していたが遅れており2019年度には投稿を済ませたい。

2つ目は、日本の労働市場における差別仮説の研究である。本年度より新規でKHPS/JHPS データを用いた出身地による差別の検証を進めた。初稿はほぼ完成しており2019年度中に英文専門誌に投稿をする。なお、昨年度の「成果の説明書」で報告していた研究計画のうちプロ野球の選手名鑑より構築したデータを用いた同テーマの分析については、適当な分析結果が得られず論文にはできなかった。

3つ目は、「人とAIシステムの協働タスクモデルの構築に向けた調査」のデータを用いて、タスク情報を用いた正規・非正規賃金格差の分析を行う。同一労働同一賃金の実現が進められる中で、タスク情報をコントロールし統計的に労働の違いを修正した場合においても正規・非正規賃金格差がどれだけあるかを確認する。